

## 寄付者のご芳名

当協会にご寄付いただいた方々のご芳名を掲載させていただきます。

匿名希望を除く。50音順、2017年6月～2017年10月

寄付者のご意向に従い、協会活動の充実を図るべく努力する所存でございます。

ここに「目で見えるWHO」の紙面をかりて厚くお礼申し上げます。

【個人】

【法人】

生駒 京子 様 新居 誠一郎 様

サラヤ株式会社様 (一社)生産技術振興協会様

前(63)号のあらまし

- フォーラム「口の健康 Part-3」開催報告  
「咀嚼の大切さ」～おいしさを提供する補綴歯科～  
田中 昌博  
「歯周病と生活習慣病との関係」 深田 拓司
- 国際保健医療の新しいあり方 「だれひとり取り残さない国際保健医療をめざして」 中村 安秀
- WHO 本部研修報告  
「医療の質を改善するためのWHOの活動」 時田佳次

前々(62)号のあらまし

- jaih-s との共催フォーラム 開催報告  
「世界の食糧事情を知る」 目時 しおり  
「食糧の入手困難による健康問題」 忍足 謙朗  
「健康問題と食事とのかかわりと国際協力」 石川みどり
- ハイチコレラ流行に対する緊急医療支援 森田佳奈子
- うつ病との正しい付き合い方 工藤 喬
- 「未来の医師のためのグローバルヘルス・スタディツアー：WKCの訪問記」 池尻達紀他

### (公社)日本WHO協会事務局だより

10月19日、大阪市立大学でWHO西太平洋地域事務局の葛西健氏の講義を拝聴した。SARS、MERS、エボラなどを例に、①健康に影響を及ぼす因子は国境を越える、②感染症はいまだ分からないことだらけ、③感染症対策は胃の痛くなるような決断の連続、④決断するためには疫学の素養が必要、⑤世界を理解するためには自分の立ち位置を確立することについて話された。SARSで同僚を失った痛みが葛西氏の今のお仕事を支えている一つの要因であることも話された。アジア地域で大きなリスクを抱えている薬剤耐性問題AMRへのWHO西太平洋地域事務局の取組みについても話された。

後半は、「感染症の判断と決断」という演習問題で、WHOの職員研修テキストを簡易化した資料を基にグループワークが行われた。限られた情報をどのように判断し、どのようなアクションをとるのか、学生たちとの討論を通じて、現地調査での質問力の重要性やWHOが「原則公表」を経験則として持っていることなどをコメントされた。クリティカルな状況での意思決定は、すべてのマネジメントに共通する“胃の痛くなる”決断だと感じた。気さくで熱い語り口のあっという間の3時間の講義であった。葛西氏の今後の益々のご活躍をお祈りしたい。

広告

## 化学遺産に認定されました

【日本化学会 認定化学遺産 第041号】  
【日本における殺虫剤産業の発祥を示す資料】



日本化学会化学遺産  
認定証  
大日本除虫株式会社 贈



初期の渦巻型蚊取り線香  
**金鳥の渦巻**



日本で初めての  
エアゾール殺虫剤  
**モトチョール**

日本の殺虫剤産業は、弊社創業者の上山英一郎と除虫菊との出会いから始まり、有用な化学製品である世界初の蚊取り線香やエアゾール殺虫剤の製品化、ならびに除虫菊に含まれる有効成分・ピレトリン類に関わる化学的研究を礎として現在に至っております。

